



トロントの風

トロント補習授業校 学校だより
令和6年6月15日 No.10
校長 近藤 仁巳

中間テスト(中学部) & 到達度を確認するテストが各学部で行われました むむむ

先週は中学部では中間テストを実施いたしました。交通機関のストップが懸念されましたが、授業日への影響はなく、生徒の皆さんには準備の成果を十分に発揮してもらえたことと思います。中学部では午前中の4時間、4教科のテストでしたが、この時期、校内では小学部や高等部でも、単元テスト(教科書の各単元の学習を終えた時点で行うテスト)に一生懸命取り組む児童生徒の姿が見られました。

1学期の折り返し点となる今、テストを通して自信を胸に学習を進めたり、苦手だった部分の復習に取り組んだりなど、自分の学習到達度の振り返りに活用していただけたらと思います。



中間テスト(中学部)



小学部2年生



小学部3年生

単元テスト



小学部4年生



高等部2・3年生

「意見交流 & 学び合い」の授業研究を進めています Vol.2

教員の指導力向上を目的とする授業研究を、6月8日(土)に2学級で実践しました。

1学級目は、小学部5年生の国語科、単元「日常を十七音で」の授業で進めました。この単元では、「感動が伝わるように、表現を工夫して俳句を作る」ことを学習の目標としています。

まず、作りたい俳句のイメージに合う季語を一つ決めて付せんに書いてノートに貼りました。そして、情景や気持ち、感動を表す言葉を思い浮かべ、一言ずつ別の色に付せんに書き、季語が書かれた付せんのまわりに貼っていきました。こうしたマッピングの手法で思考を整理して、俳句をつくっていきました。

この授業での学び合いの場面は、各自がつくった俳句を仲間同士で読み合い、気付いた表現の工夫について伝え合うところでした。言葉の順序やカタカナでの表記、擬人法など、授業の中でのこうした交流を通して、互いの表現の工夫、俳句の面白さを感じ取っていきました。

季語を決め、イメージする情景や気持ちなどを付せんに書き出す

→ マッピングで思考を整理し、音の数を調整して俳句をつくる

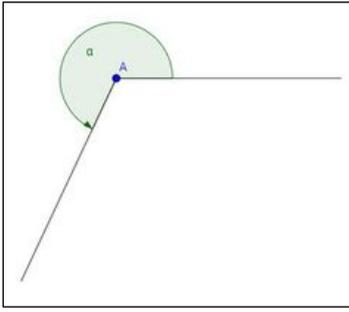
→ 言葉の順序やカナ表記、擬人法などの工夫に思いを巡らせる

→ 仲間同士で俳句を読み合い、よかったところを**伝え合う**

→ 表現の工夫について**具体的に知り**、俳句の**面白さを感じる**



つくった俳句を読み合います



2学級目は小学部4年生の算数科、単元「角の大きさ」の授業実践でした。この単元では、「 180° より大きい角の測り方を考え、分かりやすく発表できる」ことを学習の目標としています。

ちょっと見慣れない、開きすぎている角度を、一体どのように測ればよいか。まずは前時までの学習を思い返して、自分の考えをノートに書くことから始めました。このとき、書き方は、言葉でも図でも、数字と式でも、読み手に分かれば制限はなく、それぞれが思いつくことをノートに書いていきました。

次に、班の仲間で集まり互いの考えを紹介しながら話し合いを進め、班ごとの発表に向けて整理して発表用の用紙に書き出していきました。解き方は一つとは限らないことから、複数の考え方を順に整理して、「それは僕と同じ解き方だね」「そのやり方も書いておこうよ」といった新たな気付きにつながっていく様子が見られました。

そして、班ごとに前に出て、班の仲間で整理し、まとめた解き方について学級全体で共有しました。授業の中でのこうした話し合い、発表といった交流を通して、子どもたちは様々な考え方に触れ、理解を深めていきました。

学び合うことで理解が深まり、「わかる授業」としていけるように、今後も各学部、学年のテーマ、発達段階に沿った研究授業を進めてまいります。



解き方を伝え合っています

180°より大きい角度の測り方について、ノートに考えを書く

→ 班の仲間同士で、考え方を伝え合う

→ 仲間の考えのよさに気付き、よりよい測り方を検討する

→ 班で考えをまとめた後、全体の場で発表し、共有する

→ 自分の班の考えとの違い、よい点に気付き、理解を深める



考えを共有し、理解を深めました

お知らせ

○「第45回海外子女文芸作品コンクール」 応募は、明日(6/15)が締め切りです！

作文、詩、短歌、俳句の、どの部門にもご応募できます。
「書く力」の伸長と、ご家族でカナダ・トロントでの生活を振り返りながらコミュニケーションを図っていただくことを
願い、募っています。

いよいよ明日(6/15)が各学級での提出締め切りです。

受け取ったはずの応募票や原稿用紙、
応募用紙が見当たらない…、書き損じて
しまった…など、ご事情がおありの方は、
至急、担任までご連絡ください。



○6/15は「朝の読書」 の時間があります

お子さまのお気に入りの本が
ございましたら、補習校での朝
のひとときを落ち着いて楽しめる
よう、ご家庭から1冊、持たせて
いただきますようお願いいたします。

